

本シンポジウムでは、大分県、宮崎県、佐伯市、竹田市、延岡市、日之影町、高千穂町及び豊後大野市と2県6市町で登録をめざす「祖母傾ユネスコエコパーク」の推進活動や、県内初の市町村単独による策定を目指している「生物多様性ぶんごおおの戦略」など、これらの取り組みの気運の上昇を図るとともに、その利活用をも探ることを目的とします。

また、これまでのジオパークを通じた活動を振り返るとともに、豊後大野市の魅力を再び見直すことで次の一步を踏み出すための力となると考えます。さらには、祖母傾国定公園が設立されて50周年を迎え、豊後大野市制も施行10周年となる節目を祝う内容とします。

平成27年11月14日(土) **プログラム** 参加無料【定員:300名】

第1部

「ジオ・エコパークで豊後大野市を元気にする」

- 9:30～ 開会式
- 9:40～ おおいた豊後大野バーチャルジオツアー
おおいた豊後大野ジオパークガイド
- 10:00～ ■講 演 「地球に遊んでもらいましょう」
講師 大岩根 尚氏 (三島村役場地球科学研究専門職員、第53次日本南極地域観測隊)
- 11:00～ ■講 演 「山という自然、その限りない魅力…
ヒマラヤ、日本、郷里の山々にふれる体験から」
～エコパークの魅力に五感でふれる自然体験の可能性～
講師 戸高 雅史氏 (野外学校 FOS 代表、大分県宇目町出身の登山家)
- 12:00～ 休憩

大岩根 尚氏 三島村役場地球科学研究専門職員
第53次日本南極地域観測隊



1982年、宮崎県生まれ。三島村役場定住促進課/地球科学研究専門職員。地質学、海洋地質学を学び、2010年に東京大学大学院で環境学の博士号を取得し、卒業後は国立極地研究所に勤務、第53次日本南極地域観測隊として南極内陸部の地質調査に参加した。
2013年10月に三島村役場職員に転身。2015年9月には三島村・鬼界カルデラジオパークとして日本ジオパークに加盟認定され、「地球を学び、地球と遊び、地球を体感できる場所」を作るため日々奮闘中。

戸高 雅史氏 野外学校 FOS 代表、
大分県宇目町出身の登山家



1961年、大分県生まれ。登山家、登山ガイド、野外学校FOS代表。
世界第二の高峰K2等8000m級の高峰を単独、無酸素で登頂し続け、登山家として輝かしいキャリアを築いた。自然体験教室「野外学校FOS」は、自身の厳しい登山体験のなかで得た「いのちの共感」という体験を、次世代を担う子どもたちに伝えるために設立。現在、FOSをベースに、大人から子どもまで多様な自然体験プログラムを設け、精力的に活動している。

第2部

「自然との共生が豊後大野市を元気にする」

- 13:00～ 豊後大野“自然”写真コンテスト表彰式 講評 宮地 泰彦氏 (審査委員長)
- 13:30～ ■基調講演 1 「海外における野生生物との共生と経済的効果」
講師 関 健志氏 (公益財団法人 日本生態系協会 事務局長)
- 基調講演 2 「生物多様性社会が育むトキとの共生と豊かな地域づくり」
講師 渡辺 竜五氏 (新潟県 佐渡市役所 総務課 課長)
- 15:30～ パネルディスカッション
「環境保全と地域振興が両立する仕組みを求めて」
- 17:00～ 閉会式

関 健志氏 公益財団法人 日本生態系協会
事務局長



財)日本鳥類保護連盟を経て、1990年より2年間ナバルで、世界的に希少なサルス鶴やサイの保護に携わる。湾岸戦争後は、油まみれになった鳥たちを助けるため、サウジアラビアで活動。
2003年財団法人日本生態系協会事務局長。2004年より日本ナショナル・トラスト協会の事務局長として、企業や行政、地域のNGO、NPOと連携して自然を守る活動に取り組んでいる。

渡辺 竜五氏 新潟県
佐渡市役所 総務課 課長

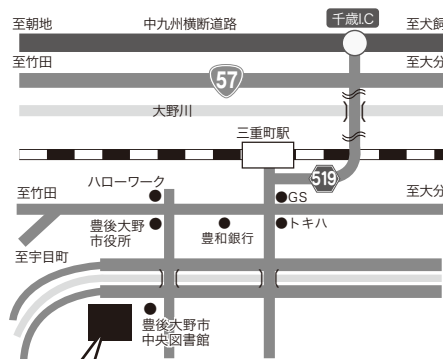


佐渡市農林水産課長、佐渡市総合政策課長を経て、平成27年度より佐渡市総務課長。
農林水産課長時代には、「朱鷺と暮らす郷証米制度」、世界農業遺産の登録、棚田サミットの誘致、東アジア遺産学会誘致、生きものを育む農業国際会議誘致などに取り組み、トキをはじめとした生きものと共生する佐渡の里山づくりに尽力される。

大地の恵みを未来のこどもたちへ
“大地”と“生きもの”
シンポジウム

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

**祖母傾山系を
ユネスコエコパークに!**
～豊かな自然を守り、
活かし、つないでいこう～



エイトピアおおの
(豊後大野市総合文化センター)
〒879-7125大分県豊後大野市三重町内田878番地